

## 協会に事務局を置く団体

### 神奈川県消化器がん検診機関 一次検診連絡協議会

本協議会は老人保健法施行に伴い昭和57年2月、日本胃腸検診学会（現：日本消化器がん検診学会）関東甲信越地方会実施機関部会において各県単位に「協議の場」を設置する申し合せにより発足し、33年が経過した。

発足以来、県内における老人保健法（昭和57年度～平成19年度）および健康増進法（平成20年度～）に基づく胃がんの住民検診を行う一次検診実施機関の精度管理の向上、行政、医師会をはじめとする関係機関との連携協力を図り、共通の諸問題の研究、技術の向上を目指して討議を行い、胃がん検診の充実、発展を図ってきた。当協会は発足当初より事務局を引き受けている。

平成17年1月から10年にわたり本協議会の会長を務められた今村清子先生が平成28年3月に逝去されました。ご生前のご指導に感謝し、神奈川県内の消化器がん検診の技術、精度の向上に多大なご貢献をされたご功績に敬意を表します。

#### 1. 協議会の開催

- (1) 第80回協議会 平成27年7月8日（水）  
(2) 第81回協議会 平成28年1月29日（金）

#### 2. 幹事会の開催

- (1) 第99回幹事会 平成27年6月26日（金）  
(2) 第100回幹事会 平成27年12月18日（金）

#### 3. 研修会

- 日時：平成28年1月29日（金）  
演題：「内視鏡による胃がん検診の役割や精度管理」  
講師：新潟県立がんセンター新潟病院 内科臨床部長 成澤林太郎先生  
日時：平成28年3月11日（金）  
演題：「胃X線検診 読影基準カテゴリー分類」  
講師：東京都がん検診センター 消化器内科部長 入口陽介先生

#### 4. 技術部会

- (1) 第1回 平成27年5月13日（水）  
(2) 第2回 平成27年8月19日（水）  
(3) 第3回 平成27年11月18日（水）  
(4) 第4回 平成28年2月17日（水）

#### 5. 講習会（神奈川県がん検診担当医師・技師講習会）

- 日時：平成27年8月14日（金）  
主催：神奈川県 ＊共催事業

#### 神奈川県消化器がん検診機関一次検診連絡協議会名簿

横浜市立市民病院がん検診センター	副会長(会長代行)	小林 理
川崎市立井田病院がんセンター	検診担当部長	石山 暁
(公財)逗葉地域医療センター	施設長	佐藤 康明
(医)松英会	理事長	河村 攻
(一財)京浜保健衛生協会	理事長	寺門 節雄
(医)倉田会 メディカルサポートクリニック	理事長	矢作 淳
神奈川県厚生農業協同組合連合会 保健福祉センター	院長	宗像 覚
神奈川県労働衛生福祉協会	センター長	中安 邦夫
(公財)神奈川県結核予防会	会長	西平 浩一
(公財)神奈川県予防医学協会	専務理事	浜辺 浩章
厚木市立病院	代表理事	土屋 尚
(医)社団相和会産業健診事業部	病院長	山本 裕康
(医)藤順会藤沢総合健診センター	理事長	土屋 敦
相談機関	理事長	石井 敏和
神奈川県保健福祉局保健医療部がん・疾病対策課	課長	佐々木つぐ巳
神奈川県医師会	副会長	武内 鉄夫
神奈川県医師会	理事	笹生 正人
		平成28年7月12日現在 (事務局 新保 文樹)

### 神奈川県消化器内視鏡技師研究会

本研究会は、消化器内視鏡技師、その仕事に携わる人々を対象に、お互いの知識・技術の向上をめざし日常業務の質の向上を図る目的で設立され活動を行っている。

今年度は、藤沢湘南台病院 副院長 高橋 大介先生に世話人をお願いし下記の通り行われた。

#### 第35回神奈川県消化器内視鏡技師研究会

日時 平成27年4月26日（日）  
会場 (財)横浜市教育会館  
世話人 藤沢湘南台病院 副院長  
高橋 大介先生

技師世話人 高木ちなつ  
内 容

消化器内視鏡機器取り扱い講習会

一般演題 4題

特別講演 『大腸カプセル内視鏡の現状と今後の展望』

パネルディスカッション

『内視鏡教育の現状と課題』

入場者 467名

「特別講演」では、大腸内視鏡カプセル内視鏡の現状と今後の展望について国立がん研究センター中央病院 内視鏡科松本美野里先生より、検査の普及現状、読影の体制、等についてお話をいただいた。

「パネルディスカッション」は、～内視鏡検査教育の現状と課題～のテーマで各施設、日常業務レベルアップのために緊急時対応や新人教育のマニュアル作成に至るまでの問題点や課題としたことなど詳細に発表され、研究会参加者が各施設に持ち帰り参考にできる有意義な会となった。

#### 顧問（五十音順）

青木 誠孝	青木医院
比企 能樹	北里大学病院名誉教授
西元時克禮	北里大学病院名誉教授
勝又 伴栄	北里大学病院
藤田 力也	昭和大学藤が丘病院名誉教授
高橋 寛	昭和大学藤が丘病院
峯 徹哉	東海大学病院
山川 達郎	帝京大学溝口病院
伊東 文生	聖マリアンナ医科大学病院
安田 宏	聖マリアンナ医科大学病院
生沢 啓芳	あいクリニック
南 康平	丹羽病院

#### 役員

青地 広美	横浜市立大学医学部付属市民総合医療センター
片野早江子	聖マリアンナ医科大学病院
佐藤 和夫	神奈川県労働福祉協会
富田 美穂	聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
鈴木 瑞穂	松島クリニック
谷合 幸乃	横浜市こども青年局
高木ちなつ	藤沢湘南台病院
納所けい子	神奈川県予防医学協会
花木由香里	村松内科胃腸科クリニック
平井 弘子	東名厚木病院
藤森 弘樹	昭和大学藤が丘病院
石渡 美和	横須賀共済病院
三浦 美保	北里大学東病院
荻野 和広	東海大学病院
山本 松男	南大和病院
志賀 拓也	日本鋼管病院
本多 好恵	小田原市立病院
渡辺 朋子	菊名記念病院
保坂 深雪	

(事務局 納所けい子)

## 子宮がん車検診実施検討会

子宮がん車検診実施検討会（以降、検討会）は、精度管理向上を目的とし昭和46年度にスタートした。

検診車による子宮頸がん検診は、昭和43年度から開始され、県下市町村から委託事業として、当協会が検診車を配車し、細胞診断、結果報告を行っている。

検討会には、検診に協力していただいている北里大学、東海大学、横浜市立大学、聖マリアンナ医科大学、日本医科大学武蔵小杉病院、相模野病院、その他の医療機関の産婦人科の医師及び神奈川県立がんセンター婦人科腫瘍専門医師が参加し、車検診のデータの検証、発見症例の再検鏡や再検証・検討を実施し、精度管理の維持向上に役立てると共に、実務上必要な情報交換を行っている。

平成27年度の検討会では、前年度のデータの検証等に加え、医療事象の記録と情報の共有の方法等について検討した。

検討会で報告・検討された内容については、神奈川県産科婦人科医会の代表医師に対しても報告している。

（事務局 佐藤 光宣）

## 神奈川県乳がん集団検診協力医療機関連絡会

県域の乳がん集団検診は昭和52年度から開始されている。昭和53年度以降は県が実施主体となって、「神奈川県乳がん集団検診協議会」の技術指導のもとに神奈川県予防医学協会が委託を受け実施した。

その後、昭和60年度に乳がん検診が老人保健法に変わり、実施主体が市町村に変わったのを契機に、神奈川県予防医学協会を事務局として「乳がん集団検診協力医療機関連絡会（現会長福田護（聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック院長）が発足し、上記協議会を引き継ぎ、検診の実務が逐行されている。

同連絡会は「神奈川県生活習慣病検診管理指導協議会乳がん分科会（会長 福田護（同上）、事務局：神奈川県保健福祉局）」の指導のもと検診精度管理面の検討と、検診の円滑かつ効果的な運営を図るため設置運営されている。また、同連絡会は年に1回全体の協議会を開催し、集団検診ならびに追跡調査の状況を報告し精度管理のチェックをすると共に、検診の実務上必要な情報交換を実施し、また厚生労働省の視触診の指針に基づく技術協力を各医療機関に要請している。

そして追跡調査の結果は毎年連絡会の医療機関の代表が「日本乳癌検診学会」に報告し、全国における神奈川の検診実態把握と精度向上に努めている。

### 2、会員（敬称略：順不同・平成27年8月1日現在）

会長 聖マリアンナ医科大学附属研究所プレスト&イメージング先端医療センター附属クリニック 院長 福田 護

#### 〈医療機関名〉

横浜市立大学医学部一般外科	利野 靖
昭和大学藤が丘病院	松宮 彰彦
横浜南共済病院	松川 博史
聖マリアンナ医科大学病院	津川浩一郎
藤沢市民病院	仲野 明
藤沢湘南台病院	田村 功
茅ヶ崎市立病院	小林 一博
平塚共済病院	谷 和行
小田原市立病院	小山 隆史
山近記念総合病院	久保田光博
秦野赤十字病院	蓮尾 公篤
東海大学病院	徳田 裕
東海大学大磯病院	島田 英雄
伊勢原協同病院	飯尾 宏
平塚市民病院	金井 歳男
海老名総合病院	萩原 英之
東芝林間病院	竹中 晴幸
相模台病院	坂本いづみ
湘南記念病院	土井 卓子
東名厚木病院	日野 浩司
川崎市立井田病院	麻薙 美香
横浜市南部病院	福島 忠男
北里大学病院	塚本 秀人
神奈川県立足柄上病院	米山 克也
国立病院機構相模原病院	井上 準人
国際医療福祉大学熱海病院	田邊 浩悌

（事務局 山本 寛典）

## 神奈川乳房画像研究会 神奈川乳房超音波画像研究会

本研究会は平成10年12月に発足し、マンモグラフィ・乳房超音波・乳房画像診断・病理診断に携る県下の診療放射線技師・臨床検査技師・医師とその検査を受ける立場である一般の方に至るまでを対象とし早期乳がん発見をするために画像診断力や精度管理の知識向上に役立つ情報の伝達や医療現場の情報など普及活動を行っている。平成18年3月に発足した神奈川乳房超音波画像研究会も同様に広い範囲で活動を推進している。

代表世話人 加藤善廣  
(川崎市立多摩病院)

### ◎平成27年度の活動状況

#### 《第52回研究会・第29回超音波研究会》

開催日時：平成27年6月13日(土) 14:00~18:00  
会場：神奈川県警友会けいゆう病院 13階大会議室

1. 「マンモグラフィにおける乳腺濃度測定」  
(株)フィリップスエレクトロニクスジャパン  
マンモグラフィモダリティスペシャリスト  
佐山春香先生
2. 「乳がんのオーダーメイド治療について」  
湘南鎌倉総合病院 田中久美子先生
3. 「原理からわかる乳癌の画像診断」  
：超音波、MMG、造影検査  
東海大学医学部専門診療学系画像診断学  
風間俊基先生
4. 臨床画像評価

神奈川乳房画像研究会 世話人  
参加者：89名

#### 《第3回デジタルマンモグラフィ勉強会》

開催日時：平成27年8月2日(日) 14:00~17:00  
会場：神奈川県予防医学協会

1. 「医療デジタル画像の世界とデジタルマンモ品質管理について」  
神奈川乳房画像研究会 世話人 石川光雄  
参加者：12名

#### 《第53回研究会・第30回超音波研究会》

開催日時：平成28年1月23日(土) 14:00~18:00  
会場：横浜市立大学福浦キャンパス  
ヘボンホール講義棟1F

1. 「ブレストトモシンセシスを導入して  
～乳腺外来における臨床経験より～」  
横浜栄共済病院 俵矢香苗先生
2. 「精密検査施設における乳房超音波」  
聖マリアンナ医科大学病院 超音波センター  
桜井正児先生
3. 「技師も知っていたい！  
～乳がん画像診断から治療まで～」  
聖マリアンナ医科大学病院 乳腺・内分泌外科  
小島康幸先生  
参加者：84名

#### 《神奈川県医師会主催マンモグラフィ撮影技術講習会》

開催日時：平成28年2月13日・14日  
会場：横浜市立市民病院がん検診センター  
参加者：49名

#### 横浜市乳癌検診二次読影会 毎週3回

世話人会開催

- |            |             |     |
|------------|-------------|-----|
| H27年 4月26日 | 19:00~20:00 |     |
| 5月18日      | 19:00~21:00 |     |
| 6月3日       | 19:00~21:00 |     |
| 7月1日       | 19:00~21:00 |     |
| 9月28日      | 19:00~21:00 |     |
| 11月16日     | 19:00~21:00 |     |
| H28年 1月18日 | 19:00~20:00 |     |
| 3月14日      | 19:00~21:00 | 計8回 |
- (事務局 見本喜久子 鎌田衣珠美)

## ピンクリボンかながわ

「ピンクリボンかながわ」は、乳がんの早期発見・早期治療をめざして、認定NPO法人乳房健康研究会と共に、乳がん検診の受診率向上と乳がんについての知識の普及・啓発を目的として、平成18年度から取組み10年目となる。

神奈川県から貸与されたマンモグラフィ検診車の活用を図り、行政・企業との連携が拡大し活発な活動を展開してきた。

各団体との連携による主な活動としては、マンモグラフィ検診車の展示や、ピンクリボンブースで乳房模型を使い、しこりの触診体験や自己触診方法を説明している。

また、小規模の催しには、乳房模型の貸出しや自己触診方法が載ったリーフレットの提供による活動支援も行っている。

地域による新たな活動として、大船観音寺の大船観音がピンクにライトアップされ、本堂での講演や境内でのイベントを鎌倉市等と連携し実施した。

また、湯河原温泉旅館協同組合や女将の会との連携で女性にやさしい温泉旅館として浴用肌着の設備や術後の貸切ツアーを開始した。

横浜市水道局では、ピンクリボンかながわコラボによる「ピンクリボン缶」は、備蓄年数を拡大した災害時の飲料水7年保存500ml「横浜水缶」の作製は3年目になる。

更に、神奈川県内広域水道企業団でも5年備蓄350mlの「やまなみ五湖のブレンド水」とのコラボの「ピンクリボン缶」が昨年に続き作製され、災害に備え、健康にも備える。備えることの大切さを多くの方々に伝えた。

企業の活動支援として、キリンビバレッジのピンクリボン自販機に続き、新たにダスキン製のピンクリボンマットが作製され日常生活に密着した啓発活動となっている。

平成27年度は、県内市町村や企業等のイベントや講習会、研修会へ延べ43団体56日間、協力参加した。

本会としての主活動は、9月22日に、神奈川県、横浜市をはじめ関係団体と連携したイベントを横浜公園、日本大通を中心に、更に、9月25日~27日には神奈川県庁、横浜市開港記念会館、横浜マリントワー、象の鼻パークのスクリーンパネル等9ヶ所でピンク色のライトアップを行った。

### 役員

1. 代表 土井 卓子  
(湘南記念病院乳がんセンター長)
2. アドバイザー 青野 智子  
為行 勲
3. 監事 2名 吉泉 英紀(横浜市政策局)  
高木富美子(乳房健康研究会)
4. 事務局長 野口 正枝(神奈川県予防医学協会)  
事務局員 7名

ボランティア登録90名

(協会職員・協会OB・外部応援者等)  
(事務局 野口 正枝)

## 神奈川県健康管理機関協議会

本協議会は、県内において企業等の健康管理支援業務を行う企業外健康管理機関が、より質の高いサービスを提供するため、健康管理全般に関する支援として、精度の向上、適正な事業の運営等、共通の諸問題を協議検討すると共に労働衛生行政へも積極的に協力していくことを目的として活動している。平成27年度の会員機関は15機関で年2回運営面の適正化と質的向上に関する事項の協議の場として、継続的に協議会を開催している。

### 平成26年度活動状況

#### 第1回協議会（平成27年9月10日）

1. 神奈川労働局からの連絡事項
  - ・平成27年度労働衛生行政のあらまし
  - ・第66回全国労働衛生週間（10月1日～7日）について〔準備期間：9月1日～30日〕
  - ・ストレスチェック制度マニュアル

#### 2. 講演

テーマ：「法改正を見据えたストレスチェックへの対応」  
～企業外健康管理機関の役割～

講師：三井化学株式会社本社健康管理室長  
統括産業医 土肥誠太郎先生

12月1日施行のストレスチェックについて、その概要、主な用語の解説、制度導入前の準備、実施方法、面接指導の実施、不利益な取り扱いの防止、プライバシーの保護、職場ごとの集団分析と職場改善などについて、自社で実施している経験をもとに具体的に解説を頂いた。

#### 3. 情報交換

- ・ストレスチェックに関する取り組み状況
- ・移動診療所の現状と対応

#### 第2回協議会（平成28年3月29日）

1. 神奈川労働局からの連絡事項
  - ・ストレスチェック制度導入ガイド
  - ・「労働安全衛生規則の一部を改正する省令案要綱について」労働政策審議会から妥当との答申がありました～法人の代表者などが、自らの事業所の産業医を兼任することが禁止になります～
  - ・「事業場における治療と職業生活の両立支援のためのガイドライン」を公表します～がんなどの疾病を抱える方々の治療と職業生活の両立を支援する企業に向けて～

#### 2. 講演

テーマ：「ストレスチェック義務化の現状」  
～産業医と企業外健康管理機関の役割～

講師：にしうえ産業医事務所  
所長 西埜植規秀先生

12月1日施行のストレスチェックについて、その制度の位置づけ、メンタルヘルス対策の方向性、ストレスチェック制度の導入前、実施、実施後、企業外健康管理機関における留意点。

推進のポイント及び企業外健康管理機関としての具体的な対応例についての解説を頂いた。

#### 3. 情報交換

- ・ストレスチェックに関する取り組み状況

#### 機関名 ▲代表幹事 ●幹事

- ▲(公財)神奈川県予防医学協会
- (一財)神奈川県労働衛生福祉協会
- (一財)京浜保健衛生協会
- (公財)結核予防会 神奈川県支部
- (一財)全日本労働福祉協会
- (一財)日本予防医学協会 東日本統括センター
- (一財)労働衛生協会
- 独立行政法人 労働者健康福祉機構 関東労災病院健康管理センター
- (公財)労働科学研究所
- 医療法人社団 日健会 日健クリニック
- 医療法人社団 相和会 産業健診センター
- (一社)衛生文化協会 城西病院
- (公財)逗葉地域医療センター
- 神奈川県厚生農業協同組合連合会
- 医療法人社団 同友会

※平成28年3月31日現在  
(事務局 雨宮 徹)

## 神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会

神奈川健康保持増進サービス機関等連絡会は、神奈川県下で活動している健康保持増進サービス機関で組織されている。

その目的としては、事業主の責務である労働者への健康づくり活動をより質の高いものにすべく、技術の向上、運営の適正化またサービスを提供することである。

近年の高年齢労働者の増加、急速な技術革新の進展等の社会経済情勢の変化、労働者の就業意識や働き方の変化、さらには業務の質的变化等に伴い、定期健康診断の有所見率が増加傾向にあるとともに、仕事に関して強い不安やストレスを感じている労働者の割合が高い水準で推移している。

THPでは、個人の生活習慣を見直し、若い頃から継続的で計画的な健康づくりをすすめることで、働く人がより健康になることを目標にしている。

労働者の働く職場には労働者自身の力だけでは取り除くことができない疾病増悪要因、ストレス要因などが存在しているので、労働者の健康を保持増進していくためには、労働者の自助努力に加えて、事業者の行う健康管理の積極的推進が必要であり、継続的かつ計画的に心身両面にわたる積極的な健康保持増進を目指すことが重要である。

THPスタッフが、事業所内にいない場合には、企業外から支援できる機関を活用していただきたい。

### 〈加入機関〉

(一財)神奈川県労働衛生福祉協会

(公財)神奈川県予防医学協会

平成28年3月31日現在

(事務局 北見 護)

## 肺疾患検討会

発足以来、35年経過し回数も155回からとなった。会員も約1/2は第3世代となり、残りは第1、第2世代となっている。従って症例の呈示の方法も単純X-Pの検討より、即座にCTに入ることが殆どである。

## 第155回 平成27年6月16日

県立循環器呼吸器病センター 外科 田尻道彦先生 他

①先天性多発肺嚢胞症例（肺結核の外科手術後に反覆するAir leakの治療例）②左肺尖部の肋間神経鞘腫の一切除例 ③中間気管支幹より発生した副心臓枝原発の扁平上皮癌に対し、気管支形成術により切除した一例。

## 第156回 平成27年10月6日

横浜市立大学附属市民総合医療センター 呼吸器病センター 乾健二先生 他3名

症例1：43歳女性、Solitary Fibrous Tumor

症例2：57歳男性、肺ランゲルハンス細胞組織球症 症例3：43歳男性、頸部リンパ節腫脹を伴った気管内腫瘍 症例4：73歳男性、左肺癌と咽頭癌合併。大動脈内ステントグラフト挿入術を血管外科と協同で行なった成功例 症例5・症例6はそれぞれ51歳男性、74歳男性で、共に強皮症を合併している肺癌と気管支内腫瘍で、前者は奇静脈を含む静脈還流異常の手術例と後者はB<sub>6</sub>のスリーブ切除を行なった手術例。

症例5・症例6はそれぞれ51歳男性、74歳男性で、共に強皮症を合併している肺癌と気管支内腫瘍で、前者は奇静脈を含む静脈還流異常の手術例と後者はB<sub>6</sub>のスリーブ切除を行なった手術例。

## 第157回 平成28年1月26日

藤沢市民病院 呼吸器外科 吉本昇先生

肺手術治療もろもろ

症例1・症例2：IgG4関連疾患として2例の肺多発結節の症例 症例3：頸部、前縦隔のリンパ節多発腫瘍で強い呼吸器症状を呈した一例。リンパ節は自然消褪 症例4：IgG4関連をまず念頭に置いた肺結節影の診断チャート呈示。

(事務局 井出 研)

## 日本作業環境測定協会神奈川支部

日本作業環境測定協会神奈川支部は、昭和56年7月、神奈川並びに山梨の両県に所在する（公社）日本作業環境測定協会会員により設立。

現在、支部の会員は、自社1、機関27、指定1、測定士36の計67会員である。

神奈川支部は設立以来、作業環境測定士の資質向上と測定技術の精度向上、測定機関の業務改善並びに会員相互の連携強化を目的として、種々の事業を展開してきた。

平成27年度は、全国作業環境研究発表会をはじめとして、各種の事業を行った。その主な内容は次の通りである。

## 会 議

## (1) 支部会議

①総会1回 ②理事会3回

③技術専門委員会5回 ④機関全体集会1回

## (2) 本部会議

①支部長会議2回

## 事 業

## I. 技術研修会

(1) 第1回技術研修会 (27.6.18)

働く人々のメンタルヘルス対策

横浜銀行株式会社 能勢 俊一氏

(2) 第2回技術研修会 (28.2.19)

I. 最近の法令改正について

神奈川労働局労働衛生専門官 千葉 幸則氏

II. 局所排気装置等の基礎知識・実技を含む

興研コンサルタント事務所長 岩崎 毅氏

(3) 第3回技術研修会 (28.3.2)

事業場見学会：スリーエムジャパン(株)

カスタマーテクニカルセンター

(4) 第3回技術研修会 (28.3.22)

化学物質のリスクアセスメント研修

(公財)神奈川県予防医学協会 芦田 敏文氏

## II. 作業環境測定推進大会 (27.9.18)

①最近の労働衛生行政の動向

神奈川労働局 健康課長 村上 朋子氏

②喫煙の影響と喫煙防止対策について

(公財)神奈川県予防医学協会 芦田 敏文氏

③粉じん計の保守点検整備について

(公社)日本作業環境測定協会 寺田 和申氏

(公社)日本作業環境測定協会 森 裕三氏

## 理事・技術専門委員名簿

## 1. 理事会

支部長 稲葉 英樹 (住友重機械エンバイロメント)

理 事 梅田 忠明 (神奈川県労働衛生福祉協会)

井澤 方宏 (神奈川県予防医学協会)

田村 弘幸 (菱重エステート)

星 敦彦 (オオスミ)

望月 速人 (山梨厚生会)

## 2. 技術専門委員

委員長 芦田 敏文 (神奈川県予防医学協会)

高野 広正 (神奈川県労働衛生福祉協会)

佐藤 研二 (住友重機械エンバイロメント)

竹内猪佐夫 (菱重エステート)

岸 康博 (元日産自動車)

堀内 亮介 (山梨厚生会)

(事務局 芦田 敏文)

## 神奈川県学校・腎疾患管理研究会

昭和50年に発足し41年目を迎えた。各地区医師会・自治体・大学医学部・病院・学校・検診機関が相互に連携し地道な腎疾患対策を行い児童・生徒の健康に寄与すべく事業を展開している。

### I 調査研究事業

#### 1. 調査研究

- ①学校現場と腎疾患医療分野の連携を図るため、川崎市立学校児童生徒腎疾患対策会議にて講演と質疑を実施。

責任者 生駒 雅昭

(本会幹事・川崎市立多摩病院客員教授)

日程 平成28年2月26日(金)

会場 中原区休日急患診療所 3階会議室

演題 「川崎市児童生徒腎疾患検診 川崎市の現状」

参加 教育委員会、養護教諭 10名

- ②各地区の判定委員会の現状と問題点の把握。

責任者 高橋 英彦

(本会幹事・こども医療センター 腎臓内科)

日程 平成28年2月27日(土)

会場 神奈川県総合医療会館 4階第1会議室

協議事項・各地区現状報告と検討

参加 10地区担当 9名

### II 運営委員会

責任者 新村 文男

(本会会長・東海大学病院医学部小児科准教授)

日程 平成27年5月29日(金)

会場 神奈川県予防医学協会7階役員室

参加 運営委員 9名

### III 総会および研究会他

日程 10月31日(土)

会場 そごう横浜 9階市民フロア NO.3ルーム

・役員会 14:00-

・総会 15:00-

・医師部会研究会 15:30-

演題 「HUS up to date ガイドライン作成とその背景」

講師 横浜市立大学大学院 医学研究科発生成育小児医療学 主任教授 伊藤 秀一先生

参加人数 31名

### IV 定例研究会

日時 平成28年2月27日(土) 15:00-

会場 神奈川県総合医療会館 1階会議室A B

演題 ①「横浜市児童生徒腎疾患検診」

講師 ふじわら小児科院長

藤原 芳人先生

②「学校検尿の歴史」

講師 日本医科大学小児科 名誉教授

村上 睦美先生

参加人数 41名

### V 知識普及活動

1. 「2015年度 腎(じん)37号」の発刊(1,800部)

2. ホームページ活用し、県下各地域の学校保健関係者に普及活動を行なう。

(URL <http://www.shouni-jin.jp/>)

◎ホームページでの各研究会のお知らせならびに参加申込の実施

(事務局 佐藤 光宣)

## 禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議 (旧禁煙、分煙活動を推進する神奈川会議)

平成11年11月5日設立発足した本会は着実な活動を展開し、県内における禁煙・分煙に関する活動の指導的役割を果たしてきている。

協会は設立時より本会の事務局を担当している。

「神奈川県公共施設における受動喫煙防止条例」が平成22年4月に施行され、本会も条例の効果的な運用に協力するとともに、禁煙、分煙、受動喫煙防止対策に積極的な活動を展開している。

本会は、受動喫煙の健康被害を重視することを目的に、平成28年6月の総会・理事会の議を経て、「禁煙・受動喫煙防止活動を推進する神奈川会議」に名称変更した。

### 27年度活動内容

#### I 会議

(1) 総会 6月6日

(2) 理事会 4回

#### II 事業

1. 講演会 6月6日

ビデオメッセージ

「受動喫煙防止法制定に向けて」松沢成文講演

「リコーグループにおける非喫煙化対策」

株式会社リコー 杉浦顕一、桃井彩シンポジウム

「よき生活習慣を根付かせるために」

養護教諭3名、藤原芳人

2. 禁煙・防煙講演会、禁煙セミナーへの協力  
地域、学校、職域、医療関係への講師派遣  
137回

3. 世界禁煙デー 神奈川新聞 全面意見広告

4. かながわ卒煙塾 講師協力

5. 第10回日本禁煙科学会学術集会への協力

6. 喫煙生徒に対しての神奈川県教育委員会との連携・協力

7. 禁煙推進学生懇談会(県内医科大学生対象)

8. かながわ卒煙サポートセミナーへの協力

9. イベントへの参加

港南区世界禁煙デーイベント等8回

10. 関連会議への協力・参加

かながわ健康プラン21推進会議等

11. 提言書提出

「未病対策に禁煙対策を追加すること」の要望

12. メーリングリスト(NL)の運営

13. ホームページの運営 等

### 役員の構成(28年5月18日現在)

会長 中山脩郎(神奈川県内科医学会名誉会長)

副会長 中沢明紀(神奈川県立循環器呼吸器病センター所長)

〳 松井克幸(神奈川県歯科医師会副会長)

〳 高堂 正(神奈川県薬剤師会理事)

会計、監事、理事 39名

(医師、歯科医師、薬剤師、看護師、マスコミ、産業、教育等)

(事務局 栗原 博)

## スモークフリー推進かながわ基金

受動喫煙による健康への悪影響から県民の健康を守る目的で「神奈川県公共的施設における受動喫煙防止条例」が平成22年4月1日より施行された。

受動喫煙防止を広く浸透させ、自らの意思で受動喫煙を避けることができる環境の整備を促進するため、民間と行政が相互に理解と協力のもとに対策を推進し、これを継続的、安定的に実施するため、県民、法人、全国の賛同者からの寄付金を原資とした「スモークフリー推進かながわ基金」が設立された。

これは、民間と行政の協働による受動喫煙防止対策の一層の推進と、「スモークフリー」を神奈川県から広く発信し、社会全体のルールとして定着するための各種事業を実施することを目的としている。

呼びかけ人の総意により、当協会がその事務局を引き受けている。

（スモークフリーとは“煙から開放されて自由になる”という意味です）

### 設立呼びかけ人

- 公益社団法人神奈川県医師会
- 一般社団法人神奈川県歯科医師会
- 公益社団法人神奈川県薬剤師会
- 公益社団法人神奈川県病院協会
- 公益社団法人神奈川県看護協会
- 神奈川県

### 27年度活動内容

1. 「イベント・シンポジウム開催」事業
  - (1) 受動喫煙防止県民向けイベントへの協力
  - (2) 受動喫煙防止キャンペーンへの協力
2. 「広報普及啓発」事業
3. 「未成年者等喫煙防止教育」事業
4. 「スモークフリー・サポーターズ・クラブ」事業

### 運営委員会（平成28年9月13日現在）

- 委員長 笹生 正人（神奈川県医師会理事）
  - 委員 鶴見 博貴（神奈川県歯科医師会理事）
  - 〃 金子 弘之（神奈川県薬剤師会理事）
  - 〃 吉田 勝明（神奈川県病院協会副会長）
  - 〃 高橋 ゆきえ（神奈川県看護協会常務理事）
  - 〃 中澤 よう子（神奈川県保健福祉局保健医療部長）
- （事務局 栗原 博）

## 神奈川学校保健研究会

県内の養護教諭ら、学校保健関係者が自主的に研修する場として昭和43年に発足。以来、毎月1回の月例会、夏期講習会を実施している。

### 1. 月例会

- 日時、テーマ、講師、参加人数
- 4月18日、最近の少年非行の現状と課題、田原ともえ（神奈川県警本部少年相談・保護センター少年相談員）、16人
  - 5月16日、心身の自然体をめざす～神経系の自己調整力を引き出す方法～、藤本 靖（ボディワーカー・米ロルフ研究所認定ロルファー・身体論者）、14人
  - 6月27日、心身の自然体をめざす②～神経系の自己調整力を引き出す方法～、藤本 靖（ボディワーカー・米ロルフ研究所認定ロルファー・身体論者）、16人
  - 7月11日、今、真の食育を考えよう～心と身体に働きかける食の効果～、渡辺 和久（フィットネス・クリエイティブ代表）、16人
  - 9月12日、発達障害の多角的な理解、金田ゆうじ（特定非営利活動法人ココロまち 副理事長）、14人
  - 10月17日、思春期と更年期、西田 玲子（にしだファミリークリニック 婦人科医）、15人
  - 11月21日、小・中学校における特別支援教育の実際と取り組み―養護教諭としてのかかわり方―、加藤 博己（駒澤大学文学部講師・東京都立学校スクールカウンセラー）、10人
  - 12月12日、インクルーシブ教育をめざして 養護教諭が明日してみたいくなる支援、丹野 節子（きらっとたんの個別支援教室 主宰）、21人

### 28年

- 1月23日、登校刺激とは何か～保護者・担任・養護教諭の関わり～、小澤美代子（さくら教育研究所 所長・臨床心理士、学校心理士・上級教育カウンセラー）、15人
  - 2月27日、神奈川県学校・腎疾患管理研究会との合同開催  
横浜市児童生徒腎疾患検診、藤原 芳人（ふじわら小児科院長）  
学校検尿の歴史、村上 睦美（日本医科大学小児科名誉教授）8人
  - 3月26日、施設見学会 東芝未来科学館
- ### 2. 夏期講習会
- 日時：平成27年8月6、7日  
テーマ：いのちを生きる子どもの成長に 今一度より添って 参加者数（延べ）：200人
- 6日 養護教諭に必要なフィジカルアセスメントの考え方、三村由香里・岡山大学大学院教育学研究科発達支援学系（養護教育）教授・医学博士
  - 7日 ネット社会の若者たち―承認依存とコミュ力偏重について 産業界の立場より考える、笹原信一郎・筑波大学医学医療系准教授  
今、発達障害者の支援について考える、明石 洋子・社会福祉法人あおぞら共生会副理事長・薬剤師・社会福祉士

### 会員状況

小学校11人、中学校11人、高校7人、大学・短大3人、その他8人、計40人

役員（順不同、敬称略、平成28年3月31日現在）

- |      |                   |
|------|-------------------|
| 顧問   | 高田 和子             |
| 名誉会長 | 山口 京子             |
| 会長   | 鈴木 晴美             |
| 副会長  | 藤沢 恵子（横浜市立川上北小学校） |
| 幹事   | 平山 京子（北鎌倉女子学園）    |
|      | 後藤 和泉（秦野市立東中学校）   |
|      | 坂井 悦子             |
|      | 角田美桜子（厚木市立荻野中学校）  |
|      | 大塚 弘枝（川崎市立玉川小学校）  |
|      | 西尾 佳子（玉川学園小学部）    |
|      | 藤井 基子（川崎市立日吉小学校）  |
| 監事   | 中川 優子（藤沢市立鶴沼中学校）  |
|      | 工平 きん（横浜市立勝田小学校）  |
- （事務局 船崎隆文）